

令和3年度
千代田区在宅医療・介護連携推進協議会

— 議 事 録 —

日時：令和4年2月 書面開催

■開催日時・出席者等

日時	令和4年2月	
場所	書面開催	
出席者	委員	井藤会長、高野委員、西田委員、臼田委員、佐々部委員、堀川委員、梶原委員、柳谷委員、三橋委員、荻委員、鳥飼委員、小野寺委員、二上委員、松永委員、守屋委員
	関係者	九段坂病院山田副院長（オブザーバー）
	事務局	歌川保健福祉部長 原田千代田保健所長兼地域保健担当部長 地域保健課 山崎課長 高齢介護課 神河課長 在宅支援課 赤石澤相談係長、島田地域包括ケア推進係長、古庄介護予防担当係長、熊谷主事
欠席者	加賀委員、元田委員、池田委員	

■議題

- (1) 令和3年度在宅医療・介護連携推進協議会認知症連携推進部会 報告
- (2) 令和3年度在宅医療・介護連携推進事業について
- (3) 令和3年度高齢者の在宅生活における新型コロナウイルスの影響について
- (4) 令和4年度在宅医療・介護連携推進事業について
- (5) 各機関からの提言等

■議事録

議題（1）令和3年度在宅医療・介護連携推進協議会認知症連携推進部会 報告

井藤会長	多様な事業を着実に実施されている。パンフレットもよくできている。区民への広報と諸事業の効果検証が今後の課題と考える。
高野委員	認知症ケアパスについて、全体的に色・内容・文字の大きさに工夫がなされ読みやすくできている。活字の色は茶色ではなく黒色の方が高齢者にはより読み取りやすいのではないかと。 認知症ケアパス p.3 の「4 認知症の備えと診断」の案内として、かかりつけ医と認知症サポート医があり、p.10 の④医療機関のQRコードがあるが、高齢者でスマートフォンを使用し読み取るのは難しいのではないかと。東京都福祉保健局の「とうきょう認知症ナビ」に掲載されている、認知症サポート医名簿と、かかりつけ医認知症研修者にある医師・診療所名を印字することの方が親切である。

	<p>【事務局より】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 申し訳ございません、校正期限の都合で文字の色の変更が間に合いませんでした。ただ、実際の印刷ではお送りした最終校よりも濃い茶色で出力されますので、もう少し見やすい色になっているかと思います。 • 認知症ケアパスの中刷りとして、毎年、相談窓口やサービスの詳細情報を掲載している「令和〇年度版 認知症相談窓口・サービスのご案内」を一緒に配布しています。令和4年度版から、その中に「とうきょう認知症ナビ」に掲載されている認知症サポート医名簿を掲載予定です。
西田委員	<p>認知症ケアパス別冊 p. 10 誤字あり。 こちらの冊子は、何部くらい作成し、どちらに置くのでしょうか。</p> <hr/> <p>【事務局より】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 誤字について修正しました。 • 令和3年度は認知症ケアパスを4,000部、別冊を2,000部作成します。随時、不足したら増刷していく予定です。 • 高齢者あんしんセンター麹町・神田、相談センターで配布しています。また、区の認知症関係機関、各出張所、認知症疾患医療センター、警察署、郵便局等にも置いていただくよう依頼します。民生児童委員やマンション連絡会でも配布予定です。
白田委員	<p>認知症についてどのようなものなのか理解していただく取組み非常にいいと思います。家族を含め周囲の方々の理解を深め、また本人の分からないものへの不安を一人で抱え込まないようにする対応は素晴らしく、また早期発見の手助けとなるガイドラインやおくすり手帳の管理番号による通知ができるシステム等の作成を早急に進めていただきたい。</p> <p>認知症サポーター活用の取組みのひとつである企業や大学との連携の具体的な内容について、どのようなものが今考えられているか教えていただきたい。</p> <p>千代田区の健診データより、たとえば歯周病の方の認知症の比率等のさまざまなデータの分析をぜひ進めていただきたい。</p> <hr/> <p>【事務局より】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現在、認知症本人ミーティング（実桜の会）の開催場所は、かがやきプラザひだまりホールその他、㈱セブン&フードシステムズの協力のもと、デニーズ二番町店でも開催しており、令和4年度は神保町にある喫茶店でも開催予定です。今後、企業や大学との連携のもと、認知症の方が気軽に立ち寄れる居場所づくりを進めていきたいと考えています。また、認知症カフェにボランティアとして参加していただいている企業や大学もごございます。今後、認知症高齢者のニーズを把握しながら、様々な連携を検討してまいります。

梶原委員	さまざまな活動内容と書物を見せていただき、改めて知ることができました。当院では（順調にいけばですが）この夏に認知症の認定看護師が誕生します。お役に立てればと思います。
柳谷委員	認知症ケアパス別冊につきましては、手に取ってみたいくなる華やかなデザインであると思います。認知症の方と議論して論破しようとしている家族にぜひ読んでいただきたい内容になっていると思います。
萩委員	各相談窓口が分かりやすくてよい。ひとりでも多くの支援に関わる方や家族の目に止められればよいと感じる。
鳥飼委員	認知症本人ミーティングを定期的に行っているというのは素晴らしいことだと思います。現在、どのくらいの方が参加されており、今後この取組みを広げていくための具体策として、どのようにしていく予定ですか？
	<p>【事務局より】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月、同時に開催している家族ミーティングの参加者も含めると、10名程度の方が参加しています。今後は、地域の喫茶店等の協力を得て、認知症の方が気軽に立ち寄れる居場所づくりを進めていきたいと考えています。また、認知症本人ミーティング（実桜の会）のファシリテーターを若年性認知症当事者に務めていただいています。若年性認知症診断直後の不安等を話し合える場としても周知を進めていきたいと思っています。
小野寺委員	p.3 認知症早期発見事業 区の調査系の郵送物について、書面で回答することが難しい高齢者がたくさんいる中で、このやり方だと回答できない方の生活状況や本質の課題が見えないのでは？と以前から疑問がありましたので、未返送者への訪問調査はとてよい取組みだと思いました。またあわせて郵送調査について回答しやすさの配慮も今後は必要だと感じています。
二上委員	親しみやすく手にしてみたいケアパスと別冊ができたと思います。たくさんの方に見てもらえるよう配布したいと思います。
松永委員	ケアパス、別冊作成お疲れさまでした。非常に分かりやすいと感じました。ひとりでも多くの方の手元に届くようお手伝いできればと思います。
守屋委員	認知症にならないための予防法や早期発見につながるチラシやパンフレット、ケアパスなど、また、なってしまったら介護サービスや介護者支援など、千代田区にはいろいろ対応策があるようです。 自分が元気うちに多くの情報を得ておくことが大事だと思いました。
山田副院長	よいガイドブックと思います。

議題（２）令和３度在宅医療・介護連携推進事業について

井藤会長	<p>コロナ禍にかかわらず多くの事業に取り組んでいることは評価に値する。</p> <p>退院支援などを通じて、地域多職種連携の重要性と、その実施に関し今後より多くの医師の関心を高める必要がある。</p> <p>医療ステイに関しては、利用者を多くする工夫が必要と考えられる。</p>
高野委員	<ul style="list-style-type: none"> • 医療ステイ事業は重要な施策である。一回の利用日数を重症度（重介護度）に応じて、一律７日までから１４日程度までに延長できるようにしたらどうか。 • 千代田区医師会では令和４年度から新たにＩＣＴによる多職種連携システムを利用した在宅難病訪問事業をスタートさせる。 • 在宅ではケアマネジャーをファシリテーターとするＡＣＰが普及されつつあるが、高齢者介護施設での認知度が低いいため、その職員向けのＡＣＰ講演会があるとよい。 <p>【事務局より】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 千代田区の独自事業である医療ステイは、協力病院のご理解とご協力が不可欠です。利用日数の拡大等については、利用者の状況に応じた基準の明確化と財政負担の面での検討が必要になります。いずれにしても、事業の客観的な評価を踏まえて議論をしたいと思います。
梶原委員	<p>医療ステイでは協力させていただいておりますが、もっと力になればと思います。</p>
鳥飼委員	<p>千代田区医療・介護サービス検索システムは現在どの程度利用されているのか。23区内がほぼ同一のシステムなら、千代田区だけでなく隣接の区の情報も得られるようになると選択肢が広がっていいのでは。</p> <p>【事務局より】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本システムの一般向けサイトへのアクセス数は、月平均約４８０です。近隣区の情報についても一部公開していますが、各区によって掲載情報も異なるため、近隣区との連携も含め検討していきます。 • 掲載データの収集方法、類似のデータベースとの連携など課題も少なくありません。今後、医療・介護分野でのDXが進むことを踏まえて、本システムのあり方も見直す必要があると思います。
小野寺委員	<p>資料２－１検索システム便利ですね。どういう活用（検索）されているのかも分かれば、今後教えてください。</p> <p>資料２－２例年に比べてどうなのか等、傾向や分析・課題が資料上で分かるとよいと思いました。資料２－４研修の効果・参加者の感想、課題等が資料上で分かるとよいと思いました。</p>

	<p>【事務局より】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「千代田区医療・介護サービス検索システム」では、地域の医療機関や介護サービス事業所の基本情報の他、通所介護や訪問介護の空き状況等も随時更新しています。また、本システム内に会員専用サイトを設け、介護保険最新情報、社会保障審議会の資料、都や区からのお知らせ等を掲載している他、掲示板機能を活用し関係者間の情報共有の場としています。本システムの活用について、今後も検討してまいります。
守屋委員	地域の医療・介護では、退院後の自宅介護や医療ステイなど、相談できるソーシャルワーカー等の存在を知っておくことが必要だと思います。いざというときのため、どこの病院が近いとか、決めておくことも大事だと思います。

議題（3）令和3年度高齢者の在宅生活における新型コロナウイルスの影響について

井藤会長	感染状況やどのような株が流行するかにより、対応方法が変わってくるので、臨機応変に対応する必要があり、ご苦労がしのべれます。
高野委員	在宅要介護者受入体制整備事業は有用であり継続が必要である。
梶原委員	病院の中では分からない苦労がたくさんあることを知りました。病院が果たすべき役割を考えなければいけないし、皆さまからの意見も伺いたいです。
三橋委員	私自身も訪問調査や見守り支援で伺う中で「人恋しい」状況がとても感じられました。感染の恐怖と淋しさの間で、認知症初期の方ですと認識も難しいために関わりに苦労することが多くあります。少しずつでも広められるとよい事業であえると感じました。
小野寺委員	区民や関係者の悩みや課題がたくさんつまった資料だと思いました。関係者の中でも「コロナだから仕方ない」というあきらめの気持ちや行動を起こさない状況が恒常化しつつあるので、コロナ禍でもできる取組みをそろそろ本当に考えていかなければいけないと自分の反省を含め感じています。
守屋委員	私の父が在宅介護でいますが、95歳難聴で目もほとんど見えず、毎日のようにヘルパーさんに頼っていましたが、コロナで人数が少なくなり家族の負担が増えました。

議題（4）令和4年度在宅医療・介護連携推進事業について

井藤会長	「安心生活見守り台帳」の登録条件や、台帳に含まれる情報などがある程度分かるようにしたらどうでしょうか。（資料4-2）
------	--

高野委員	<p>「高齢者見守りシール」を知らない医療機関が多い。再度周知が必要である。</p> <hr/> <p>【事務局より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度中に配布予定です。準備が出来ましたら、医療機関や介護事業所等の関係機関に周知させていただきます。
西田委員	<p>高齢者見守りシールは、誰が、どのような条件で貼ることができるのでしょうか。</p> <hr/> <p>【事務局より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度、「安全生活見守り台帳に登録した方」全員に管理番号の入った高齢者見守りシールを、「お薬手帳カバー」と共に配布します。 ・医療機関や介護事業者等の関係者の連携した見守りや、異変時や緊急時にプライバシーが守られた形で迅速、適切な対応に繋がります。 ・「安全生活見守り台帳」は、区内在住の65歳以上の高齢者のうち、希望する方の氏名・住所・電話番号・緊急連絡先等を事前に登録し管理しています。現在、区内高齢者の約半数（6千人弱）が登録しています。 ・「お薬手帳カバー」にはポケットが付いており、かかりつけ医や担当ケアマネジャーの名刺、診察券等の保管先としてご活用いただけます。 ・高齢者見守りシールを貼ることで、本人の同意を取るという形にしました。 ・1人あたり5枚配布予定です。お薬手帳更新の際も活用できますし、杖など、日頃からご使用になるものに貼っていただくことも可能です。紛失時等は再度発行します。
白田委員	高齢者見守りシールとてもよいアイデアだと思います。
梶原委員	まだよく分かりませんが、活動できればとてもいいと思います。
小野寺委員	活用されるとよいと思います。
松永委員	<p>見守りシールについて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な運用の方法、開始時期 ・おくすり手帳が更新されたらシールはその都度出すのか <p>など、詳細が書面では分かりにくいので、またご相談させていただきます。</p> <hr/> <p>【事務局より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記コメント参照
守屋委員	ひとり暮らしの方など、見守りの対策につながるとと思います。

議題（５）各機関からの提言等

井藤会長	コロナ禍の中、区役所の方々が、頑張っておられることがよく分かりました。
高野委員	高齢者介護施設で新型コロナウイルス感染者が発生したときに、同じ階に居住中（グループホーム）の他の入居者に対して、高齢介護課からPCR検査の依頼があり施行したが、グループホームは在宅扱いであり、本来ならば保健所から指示があるべきである。今回は一刻の猶予も許されない事態であったためやむを得ない対応をとったが、発生元の患者はかかりつけ医がいて、他の複数の陽性者もかかりつけ医が別に存在した。グループホームでのクラスター発生時の介護と医療の連携体制の構築が必要である。
梶原委員	委員になったばかりでまだなにをしてよいのかも分かりません。 早く皆さまとお顔を合わせて情報交換がしたいです。今後とも、よろしくお願いいたします。
守屋委員	「認知症ケアパス」など本人や、そうでない人にも見てもらえると、認知症への理解が高まると思います。
山田副院長	資料3にありますように、新型コロナウイルス感染症の影響により、高齢者の活動や人との交流が低下し、運動器機能や認知機能の低下が促進されることが問題になっています。千代田区における実態の調査やそれに対する対策のガイドブックを千代田区の高齢者向けに作成することを検討されてはいかがでしょうか。 私は前任地（金沢大学）の認知症地域コホート研究実施地域で同様のことを行い、「コロナ禍における認知症予防ガイドブック」を出しました（2021年6月）。その九段坂バージョンを病院HPに掲載していますが、都心と地方では状況がまったく違うため、地域の実情に即した対応が必要と思われま。
	<p>【事務局より】</p> <ul style="list-style-type: none"> 千代田区では、令和2年度、毎年実施している「こころとからだのすこやかチェック」調査対象者を中心に、新型コロナウイルス感染症対策に関する啓発パンフレットの配布と、自粛活動による影響を確認するための調査を実施しました。

■事務局（在宅支援課長事務取扱 保健福祉部長）からのコメント

長引くコロナ禍が高齢者の生活に様々な影響を及ぼしています。在宅支援課の職員一同、認知症の方を含む高齢者を支えるために、事業目的を再確認し、この状況で最善を尽くしてきました。行政だけでは高齢者を支えることができないこと、地域で医療職、介護職、行政が連携することの重要性を実感しながら様々な事業を進めてきました。

「在宅要介護者受入体制整備事業」を構築、実施するまでの連携と支援や、コロナ禍で人と人との交流を控える傾向の中でも認知症カフェや認知症本人ミーティング（実桜の会）の開催を継続することが出来たのは、関係者の皆さまのご協力があったこそと、改めてお礼申し上げます。

コロナ前までは自立で独居生活を送っていた方が、感染拡大に伴い外出や交流を控えたことによってADL低下、認知機能の低下等が見られるとの相談も増えています。高齢者の在宅生活を支えるため、定期的な見守り、早期発見や適切な支援に繋げるため、医療と介護の連携をこれまで以上に強化し、地域全体でサポートする体制を整備していきたいと思えます。

また、今後は、「こころとからだのすこやかチェック」や各種事業の実績、KDBデータの分析等、高齢者に関する医療・介護の検診データも含め、様々なデータを活用してエビデンスに基づく施策展開を検討してまいります。

以上